

編集後記 // 造船設計便覧 //

いつ頃のことだったでしょうか？ある仕事で造船設計便覧に記載された情報が必要になり、造船設計便覧が手元に欲しくなった。状態の良い古本の造船設計便覧が出ていないかな？インターネット検索で、古本屋を探した。西宮の古本屋にあった。「在庫有り、良品」。家から近いので、すぐに買いに行った。確かにあった！その便覧を手にとってページをめくって見ると、確かにきれいに丁寧に使われている良品だ。

早速、購入のためレジへ。店主「おたく、造船関係の方？」「そうです。造船関係の仕事をしています・・・。」「この本の方は、日立造船。少し前に、亡くなられてねえ。最近、奥さんが処分に来られた。」西宮？少し前に亡くなられた？日立造船？それは、大学の先輩であり私の元上司？・・・「お名前は？」、店主「それは言えません。」と、それきり黙り。

それは、今も私の傍ら(かたわら)にあり、折に触れてばらばらとめくられている。丁寧に・・・。

今号の特集は、「田中紀男先生を偲んで」でした。田中先生との思い出に関しての皆様からの寄稿文を拝読させて頂いておりますと、古書店主との些細なやりとりによって何とも奇妙な出会いとなった造船設計便覧のことが、なぜかしらフツと思い出されました。

鴉朋編集委員長 三宅成司郎 (大学 30 期)

KEKIHO

鴉朋 第25号

鴉朋会ニュース「鴉朋」第25号

2017年6月1日

発行：鴉朋会 (けきほうかい)

〒599-8531 堺市中区学園町1-1

大阪府立大学大学院工学研究科

海洋システム工学分野気付

TEL/FAX 072-254-7461

Email: doso@marine.osakafu-u.ac.jp

<http://www.marine.osakafu-u.ac.jp/~alumni/>

郵便振替口座番号 00970-7-126500

りそな銀行深井支店 普通口座番号 0060109

加入者名「鴉朋会」



巻頭言 / 藤原 利弘 1

特集

田中 紀男 先生を
偲んで

追悼 / 三宅 成司郎 2

「田中先生の思い出」 / 杉山 和雄 2

吾が胸に残る田中紀男 恩師 / 増本 彰 3

田中先生の“やさしさ” / 奥野 武俊 4

田中先生を偲んで / 西野 安志 4

「敬愛する田中先生」 / 高原 勇 6

寄稿

同窓会だより

大阪府立大学第 11 期生同窓会報告 / 田坂 貢一 7

学内情報

事務局からのお知らせ 9

深沢先生退職記念講演会・謝恩会 / 有馬 正和 10

退職記念講演会・謝恩会を開催していただき / 深沢 塔一 11

海洋システム工学分野の新体制について / 有馬 正和 12

平成 28 年度 大阪府立大学工学部同窓会および
校友会 理事会・評議員会 出席報告 / 岩崎 泰典 12

校友会からのお知らせ / 大阪府立大学校友会 13

「世界に翔け つばさ基金」に「海洋システム工学課程」の
募金箱を設置しました。 / 新井 励 14

海洋システム工学課程 AO 入試のご案内 / 中谷 直樹 15

2016 年度修了生・卒業生就職先一覧 15

大阪府立大学工学部 鴟朋会 第 10 回総会理事会報告 16

大阪府立大学工学部 鴟朋会 第 62 回理事会報告 16

物故者連絡 17

編集後記 造船設計便覧 / 三宅 成司郎

◆表紙絵◆

「朝の大正池」
池島 彊
(大学1期)

◆表紙デザイン◆

平岡 良介
(大学 49 期)



「鴟朋」編集委員 岸 光男 (大学 25 期) 竹田 太樹 (大学 30 期) 三宅 成司郎 (大学 30 期) 野口 利仁 (大学 33 期)
池田 和外 (大学 35 期) 有馬 正和 (大学 37 期) 新里 英幸 (大学 44 期) 中谷 直樹 (大学 45 期)
松山 博志 (大学 45 期) 奥村 英晃 (大学 46 期)



最近思うこと —2045年問題は本当か？—

鴟朋会副会長 藤原 利弘（大学 24 期）

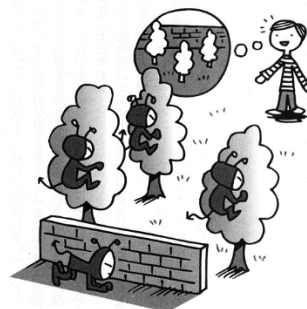
最近よく見聞きするキーワード「AI」、AI は人工知能 (Artificial Intelligence) で昨年の流行語にノミネートされた。AI は「学習・推論・判断といった人間の知能を持つ機能を備えたコンピュータシステム」(大辞林) で、蓄積されたパターンを基に、状況に応じた適切で柔軟な対応を選択することができる。AI は人の頭脳では処理できない膨大な量のデータ「ビッグデータ」に掛け合わせることで、社会、経済に大きな変革をもたらす可能性を秘めていると言われている。碁のプロ棋士との対戦では AI が全勝した。自動ブレーキによる危険回避や自動運転車の開発など急速に進化している。AI は人間の能力を超えるのか。2045 年には AI が人間の知能を超えるという予測がある。SF 映画 2001 年宇宙の旅、宇宙船に搭載されたコンピューター HAL9000 は自ら判断してクルーを危険に陥れることになるというようなシナリオだった。

AI が人間の知能を超えた時の共存のリスクに関する議論も始まっている。例えば、自動運転車がネットワークを通じて誤った情報を共有することでコントロール不能になる。AI ができることは、識別、予測、実行であり、識別や予測はある一定のレベルでできているものもあるというのが現状のようである。具体的には、市販車に搭載されつつある危険予知と自動ブレーキ機能である。振り返れば、私が情報処理サービスの会社に入社後、約十数年後ぐらいだろうか人間の知識をルール化して人間のように推論するソフトウェアを開発していたと記憶している。ただ当時のコンピューターの性能は現在と比較すると非常に劣り、推論できることも限りがあった。私が研究室にいた頃は、実験結果を紙のデータカードにパンチして計算センターに持ち込み、翌日にプリントアウトされた結果を受け取っていたが、今や当時のコンピューターの性能を上回る性能のコンピューターが手のひらサイズのスマホである。さらにインターネットが普及して、いつでもどこで

もネットワークに繋がっている社会 (ユビキタス社会) になっている。さまざまな技術革新への期待の反面、AI によってさまざまな職業が機械に奪われるなどの脅威論も叫ばれている。私が経験したソフトウェアの業界でいうと、ユーザーとコミュニケーションし、仕様を決め設計を行うソフトウェアエンジニアリングの仕事は機械化できないが、ある程度単純な作業であるプログラマーの仕事の相当部分は自動化が進むとも言われている。

しかし社会はますます複雑化、多様化、サービス化するだろう。人間にしかできないクリエイティブな仕事の必要性が高まるだろう。クリエイティブな仕事をするためにも、まだ経験が浅い若い方には基礎となる技術を身につけ、失敗も経験し、人間にしかできないスキル、知恵を身につけてほしいと思う。マニュアルや繰り返しで身につく部分もあるが、ここは機械化される。人間にしかできないスキルと何か、様々なものがあると思うが、失敗を経験しないと身につかないものもあるだろう。失敗経験を分析することで、結果だけからは見えない失敗の原因を捉えることできる。このようなことは人間にしかできないものではないだろうか。「見たくないものは見えない、失敗は隠れたがる」(福島原子力発電所事故の政府事故調査・検証委員会委員長畑村洋一郎氏)。

見たくないものは見えない 失敗は隠れたがる



出典：「強い会社をつくる失敗学」畑村洋一郎著



追悼

ニューズレター9号にてご報告致しましたが、平成28年5月9日(月)に、田中紀男名誉教授が逝去されました。哀悼の意を表するため、田中先生とご縁の深い同窓生の方々に田中先生との思い出を語って頂くことにしました。

私は昭和53年4月入学から昭和59年3月の修士課程修了までの6年間、田中先生にご指導頂きました。私が3年間所属した第1講座の研究室にもちよくちよく足を運んでこられ、先生を囲むように車座になった学生達に研究とは全くかけ離れた何とも興味深いお話を下さった事が、今更ながら懐かしく思い出されます。

お忙しい中、また遠き記憶を呼び戻しながら執筆頂いた方々に、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。田中先生のご冥福をお祈り致します。 鷗朋編集委員長 三宅成司郎 (大学30期)

田中 紀男 先生を偲んで

「田中先生の思い出」

大学12期 杉山 和雄

田中先生の教えを受けたのは50数年前のことで、あまり多くは記憶に残っておりませんが、抵抗推進関係の講義を受けたことと、卒業研究で横揺れに関する実験を実質指導の北村先生を通じてお教え頂きました。几帳面な先生は丁寧にお教え下さった筈ですが、あまり勉強の好きでなかった学生に取っては、講義の内容はかなり難しかったように思い出されます。

卒業前に主任教授の岩佐先生から「2年前に推薦した学生が、体が弱く会社を休みがちで困っているとされたので、君は身体が丈夫そうなので推薦したい。」と、名村造船所に推薦して頂きました。親の仕事を継ぐことも考えましたが、取敢えず勧められるまま造船所を見学に行きました。先輩にあたる基本設計課長に面談頂き「国内の有力船主からの受注もあり、国内船しか造りません。」との言葉もあって外国語の嫌いな学生としては、折角学んだ造船でもあるのでやってみるか入社致しました。ところが入社すぐに外国船主から撒積船を受注し、その船の「パワーカーブと線図を船研に行って教えを受けて作成してくるよう！」との命を受け、約3週間滞在して無事パワーカーブと線図を持ち帰りました。ここで先生の講義が、右も左もわからない新米設計技師にとって、大いに役立ったことは言を俟たないことです。

又大阪勤務でしたので同窓会の理事に任じられ、理事会でよく田中先生と顔を合わせました。発言するのが苦手な者としては聞き役に廻ることが多かったのですが、何かにつけて田中先生らしいご意見が会議の中で随所に出てきました。なるほどこういう意見もあるのか、こういう注意の仕方もあるのか、こういう見方もできるのか、えっ！これは無理筋ではないかと、或る意味面白く注意深く拝聴していました。これが内気な造船技師に内外の船主殿技術陣との仕様打ち合わせ、所謂スペック・ネゴ時に必要な、打合せ力を育ててくれたのではと思っています。造船所としては建造中に何度か苦境に立たされた船もあり、会社に大打撃を与え銀行管理のような状態にした船もありましたが、それらは契約書、仕様書等の契約書類にも何らかの原因があったのではないかと考えています。幸いにも小生がスペック・ネゴを担当した数多くの船は左様なことにはならず、無事引き渡され、出航して行きましたので、社内外の諸先輩の指導と先生からの示唆等が相俟って、必要な注意力、打合せ力が、自分にはそこそこに備わっていたのかなと、最近心密かに自慢しています。

先生のご指導に感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。

吾が胸に残る田中紀男 恩師

大学 16 期 増本 彰

カーネギーの「人を動かす話」という本があります。南北戦争からのアメリカ史での登場人物の中から指揮者として優れた人の話をまとめたものです。研究マネージャーとして優れた田中先生の思い出もこれに倣って綴ります。

学部 4 年の頃、部屋に誘われて、「修士課程は母校にして欲しい。大学の使命は教育と研究である。このままだと府大船舶は沈没する。」先生はビルジキールの研究で有名ですが、研究の最初はスラミングによる船底衝撃についての理論的研究で、苦勞話を聞かせていただきました。(写真は当時のもの。)



修士一年の頃、「4 回生で俊才は誰かな」、奥野君ですよと答えました。その後「奥野君は卒業後中学校の先生になりたいと言うてるんやけど。」

この頃、大阪樟蔭女子大学とのコンパで六甲山の修法が原に行くことになり、田中先生にも声を掛けますと二つ返事で同行されました。帰りは元町の喫茶店で参加者全員、先生に御馳走して頂きました。その後、のほほんと過ごしてきましたが、母校の大学院に小生を入れた先生の意図を思い出して、学生運動が沈静化した修士 2 年の初めに船舶生会（代表 増本）が“公開質問状”を一階の掲示板に掲げました。議事録によると一番目は“3 回生、教官の全員出席のもとに、2 月第 4 土曜日に教養部等の大教室で卒論及び修士論文の発表会

を行うべし。”こんなことは現在では常識ですが、結果として助教授、講師が辞めて行かれました。

5 月頃に先生のお達しで部屋に行くと「学校には残らんと言っとったから、家から通える川重にしたらどうかな？」と言って、川重の研究所の渡辺部長を紹介された。当時の川重の研究所は、設計部門から診療所と称されていたレベルであった。

川重の技術研究所での最初の研究成果を関西造船協会で発表した時に先生から電話を頂いて、自分の本意ではなくて上司から言われて出しましたと言ったら「大した論文でなくても数の内だよ。博士号の取り方は 3 つあって、大したことのない論文を纏めて博士論文とする。教授が定年になるときを狙って博士論文を提出する。創造的研究を博士論文とする。」

その後、先生からは、「博士号を出すから過去の論文を纏めろ」、何もせずにいると、「俺が博士号をやると言ってるのが迷惑かな」とかの叱咤激励を頂いたが、先生の期待に沿えませんでした。こんなこともあって、小生は 60 歳から博士課程に通うことにしました。田中先生の一番弟子の奥野先生にはとてもお世話になり、田中先生からは励ましのメールをいただきました。博士号取得後、奥野先生は「長年胸につかえていたものがとれました。」とおっしゃいました。そのつかえは、多分、田中先生が小生に「俺が博士号をやる」と言われた時からのものかもしれない。小生は、2 年前に妻を亡くしました。そのおりに先生からメールが届きましたが、「人間にとって大事なことは後に繋げていくことですよ。」でした。先生の父君は、米国の大学院に留学されたそうです。

凡為学之初、必立欲為大人之志、然後書可読也



田中先生の“やさしさ”

大学 17 期 奥野 武俊

田中先生を昨年 5 月 9 日に天に送ったが、この日を決して忘れることはできない。実は、この日は先生の 90 歳の誕生日で、小生の結婚記念日なのである。学生の身分でありながら結婚することになったことを報告に行ったとき、「お前の結婚記念日は忘れないナ」と言われたが、それは先生の誕生日であったからであった。

先生は、若いときに体を悪くされたこともあったようで、健康にはいつも注意しておられた。最も有名だったのは、NHKのラジオ体操を毎日続けておられたことだと思う。また、自宅から大学まで 6～7km ほどあると思うが、長い期間自転車で通っておられた。最近は様々なタイプの自転車が販売されているが、当時では珍しかったオールステンレス製の軽くてすばらしいもので、よく自慢されていた。また、退職してからは、何度も金剛山の登山を楽しんでおられ、その道中の花や木を写真に撮られていた。目標の回数を達成されたのかどうかを聞くチャンスは無かったが、100 回

を目指していたような気がする。でも、亡くなられる数年前にお会いした時、「人間はどんなに健康に注意しても、いつまでも体力を維持することは出来ない」と、体力の衰えを嘆いておられたことを思い出す。

もう一つ有名だったことは、先生の毒舌であろう。自分にも、人にもいつも厳しい言葉を発し、「田中先生の毒舌集」は学生達の中に密かに流布されていた。多分、先生に褒めてもらったり、やさしい声をかけてもらった記憶のある人は、ほとんどいないのではないと思う。しかしながら、いつも学生や卒業生のことを気にかけておられた。そのことを直接本人に言う事はほとんど無く、本人以外の仲間に、しかも結構厳しい言葉で「どうしているかな」などと尋ねるのだった。それが先生の“やさしさ”だったように思う。根には優しさがあったが、それを表に出すことはほとんど無かった。そんな昔風の人、またひとり失った。



田中先生を偲んで

大学 23 期 西野 安志

同窓会から手紙が来た。田中先生の追悼特集を出すことになったので、いろいろな方のご意見を頂戴しながら先生にゆかりの深い方を探したところ、あなたが見つかったという。かなり手を抜いた調査なのではないかと思う。ゆかりが深いと言えば言えなくもないが、あまり自慢のできるものではない。流体力学を一度落とした立場からすると、身分不相応ではある。とはいうもののそういうゆかり代表も必要なかもしれない・・・と前向きに考えることにした。

1. 昭和 48 年～昭和 49 年

大学 3 年になって、先生の流体力学の授業があった。見事に落ちた。点のつけようがなかったの

だと思う。4 回生になって講座を決めることになり、先生の 4 講座を選んだ。先生は、『流力を落とした奴が来るのか。』と嬉しそうな顔をされた。その年は有難く通していただいた。

4 講座の部屋には修士数人と学部 4 年が数人いるのだが、先生がときおりふらりとやってくる。煙草をやめているので飴を食べながら。そのとき私以外は勉強しているふりをする。それで先生と私が世間話をすることになる。オール読物の話もした。学問の話はしなかった。子供の自慢話もよく聞かされた。

先生は、酒はからきし駄目なのだがコンパには出てこられた。あるとき私が懐メロの歌集を講座の青焼き機を使って作ったことがある。先生がそ



の中の「旅の夜風（愛染かつら）」を酒も飲まずに歌われた。これには諸先生、諸先輩も非常に驚いた。全員先生の歌を聞くのは初めてとのことだった。けっして上手ではなかったが、とても真面目に歌われた。

講座でマーじゃん大会があった。先生が役満をテンパった。しかし対面がほぼ間違いなくテンパイしており、その待ち牌がほぼ間違いなく先生の不要牌だった。後ろから学部生が「そら勝負ですわ」と無責任なことを言い、先生もその声に応えるべくいやいや捨てたら見事当たってしまった。

ソフトボールの試合にも飛び入りで打席に立たれたことがあった。多分ピッチャーゴロだった。

2. 昭和 52 年

私の結婚式に無理をいって出席していただいた。スピーチの際、勉強で褒めることがないものだから、真面目な顔でコンパの話とマーじゃんの話がされた。聴衆は大学の先生の話だからと思って真面目に聞いていた。

3. 平成のはじめ頃

先生の退官記念祝賀会で、誰が指示したのかは知らないが、私に『一言しゃべろ!』というので用意周到原稿まで用意していった。ところが壇上に上がった調子に乗ってしまい格調高い先生の祝賀会の雰囲気壊してしましたが、壇の真下で名村の千種さんと先生が大笑いしていたので許されたのではないかと思います。



4. 平成 16 年～平成 28 年

私の父が亡くなったので喪中のはがきを出したら先生から電話があり、『君の喪中ハガキはよかった。気持ちがよく出ていた。』と誉めて頂いた。先生は記憶力が抜群によく私の父が先生と同じく大正 15 年生まれであることを覚えておられた。

その後、メール交換を時々させて頂くようになった。テーマは多岐に亘った。辞めた先生方のこと、教え子の自慢、家族のこと、ご母堂様の様子、大阪府政、市大府大統合、原発、カントの「永遠平和のために」、政治家について、化学の触媒について、工専の同級生の不幸な死、淡路島の殺人事件、などだった。世相に腹を立てていることも度々あった。意外と書生のような気分があったように思う。パソコンモニター上でメールを読むのはしんどいのではないかと心配していたが、後日奥様より、全部プリンターで出力してから読んでいたので紙の整理が大変だったとお聞きした。ご夫婦のその様子が目に浮かぶ。

先生は、研究者であるとともに教育者であることを常に意識されていた。とにかく、記憶力が良くかつ人間に興味がある。卒業生のことを時系列の混乱もなく、その属性とともによく覚えておられた。後進の若い研究者たちを一人前に育てることに常に注力されていた。その結果立派な後釜が育ったことをいつも自慢されていたが、自分の思いが叶い我がことのようにうれしかったのだろうと思う。私はその自慢の対象にはなれなかったが、幸いなことに自慢を聞かされる相手にはなれた。そのことは非常に有難く名誉なことであったと思っている。

閑話休題 — コラムに挑戦!? —

今後は、同窓生の皆様からちょっとしたコラムやエッセイなどを自由に寄稿頂きたいと思っています。そこで、その先鞭を切るべく少し余ったスペースを使わせて頂いて、以下コラム執筆にチャレンジしてみます。

漠然とコラムとエッセイは違うものとは思ってはいるものの、書く前にそれらの違いを知っておく必要があると考えてちょっと調べてみました。以下、受け売りの情報です。

コラムは多くの人が知っていることをテーマにして分析や個人的感想を加えた短い評論で、エッセイはモンテニューが書いた『エッセー(随想録)』を由来とした体験や見聞などを自由形式で書いた散文・随筆・随想のようです。両者の大きな違いは、コラムとしてまとめるには執筆者の主義主張が必要で、エッセイは思いを素直に書き連ねる、という点だと理解しました。また、前者は批判を覚悟で腹をくくって書かないといけないものと思いました。空きスペースが少なくなり、そろそろ終わります。結局はコラムにはなりませんでしたが、皆様からのチャレンジ的な寄稿を心よりお待ちしております。

賜冊編集委員長 三宅成司郎 (大学 30 期)



「敬愛する田中先生」

大学 36 期 高原 勇

昨夏、東京のある会議室で声を掛けられた。振り返ると奥野先生（前学長）であった。実に 20 数年振りの偶然の再会で、近況を話しながら玄関口を出て二人で並んで歩きだした。「田中先生が亡くなられたんやで」とぼつりとおっしゃられた。一息ついて「僕も海外出張中で、ご葬儀に出られんかったんや」として、「田中先生は、最後まであんたのこと褒めておったんやで」といい残されてその場をあとにされた。奥野先生の後ろ姿を見送りながら、田中先生のご逝去の報に涙が溢れた。

「そないに好きなら結婚したらええ、名前は順子というんやな」と田中先生が言って下さった。大学 4 年生のちょうど今頃だった。大学院進学準備をしながら、交際していた女性について先生に打ち明けた。学務と研究でお忙しい日々を過ごされていた田中先生であったが、「ご相談があります」とお願いすると「よっしゃ、夕方来たらええ」と快諾下さった。

二人きりでの相談だった。「就職するともう研究はできないことだと思っています」と言うと「本人次第や、そもそも結婚してもせんでも研究せんやろ。結婚いうのは大事なことや」と核心を突かれた。長時間傾聴して下さり、先生との問答で決断へと導いていただいた。

就職が決まったのは誰よりも遅かった。院試も終わり、秋になってからの就職面接であった。「結婚するんやから、地元の会社がええ」と先生の推薦をいただいた。面接を終えて数日が経過して不安がよぎり出した頃、田中先生が息づかい荒く研究室に駆け込んで来て、「高原、合格や、いま連絡があったんや」と皆の前で内定を知らせて下さった。面接前には「自信もって受けてきたらええ、通るに決まってる」と冷静に背中を押して下さった先生が、内定の報にまるで逆転ホームランでも打ったかのように小躍りして喜んで下さった。破顔一笑の先生の表情になんとも言えない親しみと愛情を感じた。いろんな場面で、田中先生は筋の通し方や社会というものの一端を、ユーモアとアイロニーを織り交ぜながら、その場ではわからずとも、時を経てじわりとわかるよう私達学生に對された。

就職して田中先生と令夫人のご媒酌で結婚式を挙げることができた（写真）。結婚後に先生のお宅に伺ったところ、「肉でも食べていきなさい、体力が大事や」と近くの焼肉屋さんでごちそういただいた。先生のご退職記念祝賀会では、たくさんの人に囲まれて談笑されている先生が、私を見つけると「順子は元気かー」と大きな声を掛けて下さった。「初心忘れてないか」と私には聞こえた。「元氣です」とこれも大声で即答すると「ニヤリ」と応えて下さった。研究者として、教育者として田中先生の真髓に触れられたと思うことがその後も幾度となくあった。



時を経て、私は大学で教鞭をとり、博士論文を書き上げる機会を期せずして得た。今は、社業と大学を兼務する日々を送っている。田中先生ならどのように問い返してくれるか考える。「忙しいのはええこっちゃ、せやけど、やり方を見直さなあかんのちゃうか」、「忙しそうにしてるほど、内容はないんちゃうか、自己満足やないんか」先生からの声が聞こえてきそうである。「目先でなく、未来を見据えてやるんやで」と直球でくるかもしれない。

敬愛する田中先生からご教授いただいたことを今もこのように自分で反芻している。

先生に教えていただいたことがらを深く心に刻み若い世代に伝えていきたい。

田中紀男先生のご生前のご功績や数々の思い出を偲び、心から追悼の辞を申し上げます。

先生、本当にありがとうございました。



大阪府立大学第 11 期生同窓会報告

2017 年 1 月 田坂貢一 記

23 倍の競争率の工学部入試を突破して入学した我々は、4 年間スポーツや遊行を楽しみ、学校近傍の雀荘で麻雀を熱心に学び、卒業までに全員がプレイ出来るようになった。卒業研究などと称して、3 講座（設計・水槽・構造）に分かれて、グループで研究もどきをして、昭和 38 年(1963 年)になんとか 22 名全員が卒業することができた。当時の造船業は好調期で、更に、その時の主任教授が他業種への就職を容認することを好まず、9 割以上が造船所や海運会社に就職し、学校に残る仲間は 1 人もいなかった。

我々の同窓会は、みんなが幹事を持ち回りで定期的に行っています。それは、総じて名所・旧跡を訪たりとか、学識的欲求を満たす集まりではなく、皆が元気になっているかを確認しあって、一緒に良い湯に浸かり、旨い酒を飲み、美味しい肴を食い、時間が許す限りにおいて観光やゴルフをするという集まりです。同窓会の概要は次の通りです。

① 第 1 回：大阪（1994 年 10 月）参加者：15 名

卒業 30 周年を迎えたときに、同窓会開催が決まり、翌年第 1 回の開催となった。大学を 31 年振りに訪問し、夕刻、堺東の繁華街で会食し再会を祝うと共に、現況を聞きながら杯を交わした。

② 第 2 回：有馬温泉（1997 年 10 月 24 日～25 日）参加者：13 名

有馬温泉「楽山」にて再会を祝し、会食後温泉を満喫、翌日六甲山より神戸の街を観て三宮で解散。

③ 第 3 回：熱海（2000 年 12 月 2 日～3 日）

参加者：14 名

熱海温泉の宿「後楽園ホテル」で会合。翌日は熱海の街を散策後、船で初島に渡り観光のち熱海駅で解散。

④ 第 4 回：伊勢志摩（2003 年 2 月 22 日）

参加者：10 名

同窓生皆さんの健康に感謝し伊勢神宮に参拝。ホテルでは、美味しい料理と笑顔で乾杯。



③ホテル玄関で記念撮影

⑤ 第 5 回：京都（2005 年 10 月 15 日）参加者：10 名

嵐山駅からトロッコ列車にて亀山へ行き、温泉宿にて同窓会。翌日は保津川下りを楽しみ、嵐山付近を散策して解散。

⑥ 第 6 回：大分・熊本（2009 年 5 月 18 日～20 日）

参加者：9 名

九州で初めての開催。レンタカー 2 台と自家用車 1 台で湯布院温泉へ向かう。途中大観峰に寄り「庄屋の館」に宿泊。翌日、ゴルフ組と観光組に分かれ湯布院周辺散策後、「九重夢大橋」を見て長者原周辺で昼食後、黒川温泉へ向かい「黒川荘」にて宿泊。最終日、阿蘇観光（阿蘇神社、草千里、阿蘇山、白川水源、月廻り公園、高森田楽の里、高森湧水公園、俵町展望台、等）し、その後熊本空港で解散。



⑥大観峰で記念撮影

⑦ 第7回：千葉房総半島（2011年6月7日～9日）

参加者：8名

JR安房鴨川駅集合、「山水」で昼食後、幹事2人の自家用車に分乗し、観光ボランティアガイドの説明で「日蓮誕生寺」を見学。「月の砂漠」発祥地、頼朝が伊豆から逃げてきた時に隠れ住んだ小島「仁右衛門島」を対岸から見学後、ホテル「黒潮荘」に投宿。翌日は、ゴルフ組と別れ、「波の伊八」作品巡り、「大山の千枚田」を経てホテル「鳩山荘松庵」へ。最終日、「日蓮清燈寺」を見て、「波の伊八」の彫刻で、



⑦黒潮荘で会食

北斎名画の原点と言われている「波に宝珠」を「東頭山行元寺」で見学。昼食後 JR 茂原駅で解散。

⑧ 第8回：有馬温泉・洲本温泉（2013年4月20日～23日）参加者：11名

ホテル「有馬ビューホテルうらら」集合。久しぶりの顔もあり、大いに飲んで食べて談笑した。

翌日、有馬温泉⇒明石海峡大橋⇒大塚国際美術館⇒びんびの家⇒淡路洲本温泉「ホテルニューアワジ」へ。温泉に浸かりながらご来光を迎えたのは良い思い出である。最終日、洲本温泉⇒渦潮観光船「咸臨丸」乗船⇒淡路人形座。なないろ館観光案内所2階で昼食後解散。



⑧会食前に記念撮影

⑧裸の付き合い



⑨ 第9回：箱根（2014年6月3日～5日）

参加者：8名

小田原駅前集合、送迎バスで「箱根ホテル」へ。「箱根ホテル」で、フランス料理とワインで乾杯、どうも我々は和室で浴衣姿での会食が寛げるようだ。翌日、恩賜公園、箱根関所跡、箱根駅伝記念館周辺、小田急運行「海賊船」で大涌谷観光、芦ノ湖遊覧船、駒ヶ岳ロープウェイで駒ヶ岳散策後、プリンスホテル竜宮殿へ。



⑨箱根ホテルで会食

⑩ 第10回：沖縄（2015年10月25日～28日）

参加者：6名

那覇空港で、後続組を迎え、前日から泊まりプレイ中の3名とゴルフ場で合流し、大鍾乳洞「玉泉洞」、「ひめゆりの塔」経由で、「ロジワールホテル那覇」宿泊。琉球会席で再会を祝う。翌日、「残波岬」、「万座毛」、「海洋博公園」「備瀬のフクギ並木」「古宇利大橋」「辺野古基地周辺」等観光し、居酒屋「ぶちくん」で沖縄の知人を交え会食。最終日、「首里城公園」を観光、読谷村の店舗で泡盛「長老」やお菓子などお土産を購入後解散。



⑩琉球会席で会食

⑪ 第 11 回：広島・道後温泉（2016 年 10 月 30 日～11 月 1 日）

参加者：8 名

JR 広島駅銀の鈴広場集合、「広島平和公園」から観光を開始、宮島の「厳島神社」に参拝し、尾道市の高台にある、千光寺公園傍の「千光寺山荘」で宿泊。翌日、しまなみ海道をドライブ、「因島水軍城」から観光開始。古くから海や山の神として信仰を集める、「大山祇神社」に参拝。四国に入り「今治城」を経て、道後温泉「花ゆづき」へ。最終日、松山城、砥部焼と観光し、JR 松山駅で昼食後解散。



⑪原爆ドーム前で記念撮影

2016 年 12 月現在、物故者 4 名、海外移住者 2 名、病気療養中等で参加出来ない者 4 名の状況である。喜寿を迎えた我々の今後の目標は、いつまでも元気で毎年の同窓会を続けたいと願っています。

事務局からのお知らせ

🍀 会費納入のお願い

いつも同窓会活動にご理解、ご協力を賜りまして誠に有難うございます。

2017 年度の会費納入をお願い致します。同封の振込用紙をご利用いただくか、りそな銀行、郵便振替口座にご送金下さい。なお、すでに会費を納入いただいている方には請求書を同封しておりません。御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

また『毎年納付するのは面倒。複数年まとめて納付したい。』という場合は、一括納付の方法もございます。例えば、10,000 円を上記のいずれかの方法にて納付頂いた場合は、5 年分を前納頂いたとして処理させていただきます。会費納入にご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

🍀 鷓朋会原稿募集中！！

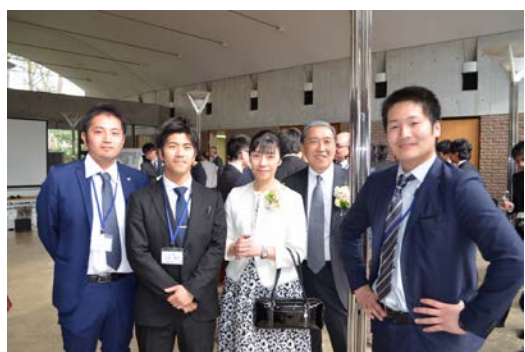
「鷓朋」は毎年約 2 回発行・配布しています。



1. テーマ 自由
(仕事や趣味について、同窓会だより、大学時代の思い出等、テーマは問いません。)
2. 投稿規定 word 形式のデータ (1,000～2,000 字程度)
および写真・イラストをメールまたは郵送にて
3. 提出期限 随時
4. 提出先 鷓朋会事務局 (担当：小塚)
〒599-8531 堺市中区学園町 1-1 大阪府立大学大学院工学研究科
海洋システム工学分野気付 鷓朋会事務局
TEL/FAX：072-254-7461
E-mail：doso@marine.osakafu-u.ac.jp

深沢先生退職記念講演会・謝恩会

有馬 正和（深沢先生退職記念講演会・謝恩会実行委員会 副実行委員長）



平成 29 年 3 月 18 日（土）の午後、学術交流会館において深沢塔一教授の退職記念講演会・謝恩会が開催されました。春らしい陽気に恵まれ、深沢研究室の卒業生、鷗朋会会員、現旧教員など総勢 56 名が集まり、深沢教授の門出を祝いました。式次第に示すように二部構成になっており、第一部の記念講演会では、深沢先生の生い立ちから定年退職後の予定に至るまで、ユーモアを交えておもしろおかしくお話をして下さいました。前任校の金沢工業大学で作成されたプロモーションビデオでは、少しお若い深沢教授が、いまと変わらず教育・研究指導について熱く語っておられ、今日に至るまでの一貫した姿勢に一同も納得をしました。大きなお世話と称して、我々に的確なアドバイスを残してくださる気配りにも感激をしました。第二部では、場所をサロンに移しての謝恩会となりました。実行委員長の馬場信弘教授の挨拶、岩崎泰典鷗朋会会長の乾杯のご発声に続き、祝宴を催しました。深沢研究室の卒業生たちに囲まれ、懐かしい思い出話に花を咲かせておられたようです。終盤、深沢研究室の院生を中心に制作された思い出の映像紹介では、懐かしい写真や現役生・卒業生からのビデオメッセージなどが披露されました。その後、卒業生を代表して、平田就啓氏（大学 61 期）、近田拓也氏（大学 61 期）、足立純也氏（大学 62 期）から感謝の言葉が述べられ、深沢教授のご挨拶と記念品贈呈、花束贈呈と続き、最後は鷗朋会副会長 大塚耕司教授の大阪締めで幕を閉じました。

深沢教授には、7 年間に亘って、本学海洋システム工学分野・課程の教育・研究にご尽力いただき、また JABEE 認定や A0 入試、国際交流などで大変お世話になりました。4 月以降は、海上技術安全研究所フェローや民間企業の顧問をされるとのことですが、どうぞご健康に留意され、今後も大所高所からのご指導、ご教示、海洋システム工学分野へのご支援をお願い申し上げます。

式 次 第	
<第一部：記念講演会> 於：多目的ホール	
開会の辞	副実行委員長 有馬正和教授（大学37期）
深沢塔一教授 記念講演	
花束の贈呈	平沼真衣氏（深沢研究室M2）
閉会の辞	有馬正和教授
<第二部：謝恩会> 於：サロン	
開会の辞	有馬正和教授
実行委員長挨拶	実行委員長 馬場信弘教授
乾杯	鷗朋会会長 岩崎泰典氏（大学20期）
祝宴	
思い出の映像紹介	深沢研究室
教え子から感謝の言葉	平田就啓氏（大学61期）、近田拓也氏（大学61期）、足立純也氏（大学62期）
深沢塔一先生ご挨拶	
記念品贈呈	平沼真衣氏（深沢研究室）
花束贈呈	俵百合氏（大学62期）
閉会の辞	鷗朋会副会長 大塚耕司教授（大学35期）
記念写真撮影	

最後に、実行委員としてご協力をいただいた皆さま、ビデオメッセージの作成にご尽力いただいた深沢研究室の学生諸君にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

「深沢先生 退職記念講演会・謝恩会」実行委員会

実行委員長：馬場信弘（平成 28 年度教室主任）、副実行委員長：有馬正和（同副主任，大学 37 期）
委員：大塚耕司（大学 35 期）、坪郷尚（大学 39 期）、片山徹（大学 41 期）、中谷直樹（大学 45 期）、新井励（大学 48 期）、黒田桂菜（大学 51 期）、平田就啓（大学 61 期）、向井馨一（大学 61 期）、足立純也（大学 62 期）、勝部誠（大学 64 期）、水井貴士（大学 64 期）、平沼真衣（M2）、二瓶泰範（准教授）、小塚由里子（事務局）

退職記念講演会・謝恩会を開催していただき

深沢 塔一

このたびは、小生の退職を記念して講演会・謝恩会を開催していただき、まことにありがとうございました。教員の皆さま始め、鳴朋会会員や卒業生、現役の学生の皆さんにもお集まりいただき、家内ともども、とても楽しいひと時を過ごすことができました。ご尽力いただいた方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

2010年4月から7年間、海洋システム工学分野でお世話になりましたが、それ以前から学会やJABEEの関係で交流がありましたものの、教職員の皆さまの温かいご支援のおかげで、違和感なく分野の1メンバーとして仕事をすることができました。着任にあたっては、4月1日に辞令をもらった直後、4月2日に教育運営委員として学生に対しての教務関係のオリエンテーションを仰せつかったのには少々驚きましたが、これも私を信頼してくれてのことと、光栄に思っております。また、退職にあたり、最終講義を、というお勧めもございましたが、最終講義は、長年大阪府大でご活躍された先生が行うものと心得ておりましたので、私は行いませんでした。その代わりに、最後にご関係の皆様にお話する機会を与えていただきました。改めて、そのような場を設けていただいた方々に感謝致します。

7年間という短い間ですが、その間、大阪府大教授の名前で船体構造の教科書が執筆できたこと、学生を連れて海外の大学を訪問し、海外の先生方や学生との国際交流を推進できたことなどが思い出されます。そして、そのような活動に加えて、人を思いやることができる魅力ある学生たちを社会に送り出したことで、何とか教授としての責務を果たせたのであれば幸いに存じます。

今後は、大阪を離れ、常勤の仕事はいたしません。船舶・海洋に係る仕事はいくつか予定されております。どこかで皆さまとお目にかかる機会もあるかと思いますが、その時は、よろしくお祈りいたします。また、この先も、学外から、大阪府立大学海洋システム工学分野のサポートをしていく所存でありますので、引き続き、お付き合いのほどお願いいたします。



学術交流会館前 奥様と





海洋システム工学分野の新体制について

平成 29 年度分野主任 有馬正和 (大学 37 期)

新年度を迎えられ、皆さまにはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、海洋システム工学分野は、深沢塔一教授が退職され、新しい体制で新年度を迎えることとなりました。中谷直樹教授 (大学 45 期) が昇任され、深沢名誉教授の後任として海洋空間利用工学領域を牽引してくださることになります。また、長年、本分野で教育研究活動にご尽力いただき、この数年は工学域生産技術センター主任を兼務されてきた山田智貴助教 (大学 37 期) が高等教育推進機構に転任されました。

人間社会システム科学研究科・現代システム科学専攻の大学院博士後期課程が来春設置される予定であることから、大塚耕司教授 (現代システム科学域長、賜朋会副会長、大学 35 期) と黒田桂菜助教 (大学 51 期) も平成 30 年 4 月より工学研究科の担当を外れる見込みです。とは言え、海洋環境関連の研究を推進されている大塚教授、黒田助教とは、今後も継続して教育研究面での協力体制をお願いしています。

工学研究科の中で最も少人数の分野となりますが、力を合わせて船舶海洋工学分野の発展に取り組んで参る所存でございますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

役職	教員氏名 (敬称略)
教授	有馬正和、片山 徹、中谷直樹、馬場信弘、山崎哲生
准教授	新井 励、柴原正和、坪郷 尚、二瓶泰範
助教	岩井久典

平成 28 年度 大阪府立大学工学部同窓会および校友会 理事会・評議員会 出席報告

<工学部同窓会理事会>

時間 : 10:00~11:00

出席者 : 工学部各单位同窓会の代表者 14 名
(賜朋会からは岩崎会長、有馬先生)

議題 :

- H27 および H28 の事業報告
単位同窓会ホームページ充実への援助
単位同窓会・クラス会開催援助
学業優秀学生に対する表彰副賞贈呈
- H26 および H27 の会計報告
前期事業費、約 ¥2,100,000~¥2,300,000/年。
平成 28 年度への繰越金は ¥6,580,000
- H28 の会計中間報告
事業費は ¥1,905,000、繰越金は ¥4,676,000
の予想
- H29 の事業計画および会計計画
例年通りの事業を計画。年度末予想繰越金は
¥1,932,000 の予想
- 工学部同窓会の存続について
・本同窓会の原資は、H4 に発行した「大阪府立
大学会員名簿」である。
・現状のままでは会計上 H30 の存続は難しい。
このため、工学部同窓会の存続について審議を
行い (事前アンケート有)、以下となった。
・H29 年度をもって、工学部同窓会の活動を終
了し、メールで H29 会計報告を行う。
・残金は、単位同窓会に会員数に応じて按分す
る (有馬先生案採用)。

<校友会理事会および評議員会>

時間 : 11:00~11:30

出席者 : 東野会長以下 各单位同窓会の代表
計 46 名

議題 :

- 評議員・役員の交代 : 省略
- H28 会計補正案 : 年初計画になかったホームカ
ミング・ディ時のウエルカムパーティー実施 (会費)
に伴う修正。
事業費は、単位同窓会へ支援ほかで ¥11,000,000
- H28 ホームカミング・ディ報告
・会費制 (¥3,000-) であったが、参加者 229 名
のアンケート結果は好評。
・参加者の 3/4 は 60 歳以上
・H29 も会費制で実施を計画 (11/5 の予定)
- 今後の校友会活動
・府大 Net Work 作り
現状の 3 地域同窓会 (東京・名古屋・岡山)
に加え九州 (福岡) を計画
・学生・卒業生のコミュニティ作り
就職支援ほか
これらについては、会長以下の事務局より次回
(6 月) 理事会・評議員会に具体案を提案する。

2017 年 3 月 5 日 (日) I-site なんば

賜朋会会長 岩崎 泰典 (大学 20 期)

校友会からのお知らせ

府大のインターネット卒業生名簿システム



のご登録はもうお済みでしょうか？

「OPU-Net 翔」は、OB・OG名簿を基盤とした大学、校友会、各同窓会、OB・OG間の双方向コミュニケーションを目的としたオンラインコミュニティサイトです。

【登録していただくと・・・（登録無料！）】

- メールで府大や同窓会のお知らせ・ニュースが届きます。
- WEB上で同窓生の検索（学部・学域・研究科、卒業年、同窓会、勤務先など）ができます。
- 探し出した旧友にメールや「私書箱」機能でメッセージを送ることができます。
- 郵送物（ホームカミングデー案内等）の住所確認・変更がWEB上でできます。



登録方法

1) 校友会ホームページにアクセスします。(Yahoo 等で、「大阪府立大学校友会」を検索)



① 「初めての方」をクリック。

「OPU-Net 翔」のサービスと、詳しい画面の説明については、[こちらをクリック](#)してください。

「OPU-Net 翔」を利用いただくためには、下記の手順にしたがって登録をしてください。

- **初めて登録される方**で、卒業生の方は[こちらをクリック](#)してください。
また、在学生の方は、[こちらをクリック](#)してください。
本人確認の後、後日「OPU-Net 翔」にアクセスするためのIDとパスワードをお知らせします。
なお、会員が必要な方については、パスワードをお知らせする前に連絡させていただきます。
- **すでに登録済みの方**は、[こちらをクリック](#)してください。
登録済みの方とは、IDが、ご本人のメールアドレス、または、10ケタの半角英数字の方です。

② 「卒業生の方は、こちらをクリック」をクリック。

③ ②をクリックすると入力画面が出ますので、画面記載の説明にしたがって入力していただくと登録が完了します。

「世界に翔け つばさ基金」に

「海洋システム工学課程」の募金箱を設置しました。



大学 48 期 新井 励

大阪府の財政状況が厳しい中、大学運営も年々厳しさを増してきております。このような厳しい状況下にあっても、大学及び府大高専を發展させ、社会で活躍する人材を育成するという本学の基本的な使命は全うしなければなりません。そのため、2009年に創設した基金に対して、現在までに多くのご寄附を賜り、資金面において多大なるご支援をいただいております。

2016年からは、より幅広い学問分野を学べる「学域制」で学んだ学生も巣立っており、学生への教育研究支援の充実を確固としたものにし、学生が世界の舞台で活躍できるよう、「世界に翔けつばさ基金」（「府大・高専基金」の愛称）として、大阪府の協力を得て“ふるさと納税”制度を活用した寄附募集活動を継続しております。上記文章は本学辻洋理事長・学長からの「世界に翔けつばさ基金」ご協力のお願ひから抜粋したものです。

これらの背景を踏まえ、2017年より、我々「海洋システム工学課程」としても、研究施設・実験設備の老朽化対策や学生の教育に関わる消耗品等々の充実を図るため「世界に翔けつばさ基金」の中に「海洋システム工学課程における研究・教育」の募金箱を設置しました。国内の経済状態は徐々に持ち直してはいるものの、依然、個人消費は伸び悩む状況下であります。しかしながら、人材育成や最先端の研究は未来への投資であり、思い返せば私自身、バブル崩壊後の氷河期に学生時代を過ごしたものの、諸先輩方からのご指導やご支援のおかげで今の自分がおります。この基金の趣旨をご理解いただき、皆さまの格別のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、「世界に翔けつばさ基金」への寄付方法は以下に記載させていただきます URL のホームページに記載されております。

<http://www.pref.osaka.lg.jp/shigaku/fu-daigaku/kifu.html>

また、府大のホームページからは、府大ホームページ→大学案内→「同窓会・後援会・基金など」の府大・高専基金→「新着ニュース」2014年7/1「ふるさと納税による寄付申し込み方法を掲載」→「大阪府／ふるさと納税制度を活用した府立大学・府大高専のための寄附のお願い」です。

同封いたしましたチラシにも申込書がついておりますので、ご利用ください。

上記の寄付は、あくまでも大阪府立大学・府大高専への寄付ですので、申し込み書類の「ご意見等」の欄に「海洋システム工学 教育及び研究への支援のため」と記載して頂くことによって海洋システム工学課程の募金箱への寄付になります。是非ともご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。



大阪府立大学海洋システム工学課程 HP より

海洋システム工学課程 平成 30 年度 AO 入試のご案内

海洋システム工学課程では、H18 年度入試から AO 入試（自己推薦型入試）を行っております。この入試は、海洋に関連する工学に興味をもち、大学で学んだ学問を社会で生かしていく強い意欲がある学生を求めるもので、学力試験だけで能力を見る一般入試とは違い、適性検査や口頭試問などを通して総合的に適性・意欲・情熱等を評価して選考する入試制度です。これまで、この入試制度で入学した卒業生は、海事産業を中心として、様々な分野で活躍しておりますが、近年は志願者数が伸び悩んでおり、志願者が減少すると、本入試制度の継続が困難になる恐れが出てきています。

賜朋会会員の皆様には、ご家族・お知り合いの方々に、この入試制度をご紹介していただきたく、AO 入試のチラシを同封させていただきました。本年度の入試より、受験生にとって負担が少なくなる選抜方法・選考方法に変更しており、より多くの方に受験していただきたいと考えております（詳細はチラシをご覧ください）。AO 入試に対して特別な準備は必要なく、海洋に関する工学への強い情熱と、最低限の基礎学力があれば受験することができます。受験機会の一つとして、ご紹介していただければ幸いです。



海洋システム工学課程 AO 入試戦略担当
中谷 直樹（大学 45 期）

2016 年度修了生・卒業生就職先一覧

大学院前期課程修了

学部卒業

天野 遼介	(株)クボタ	青木 雅明	大阪府立大学博士前期課程
荒木 大翔	航空保安大学校	家下 輝也	大阪府立大学博士前期課程
石田 将之	三井造船(株)	臼杵 龍太	大阪府立大学博士前期課程
岩田 昂士	(株)神戸製鋼	奥原 孝平	大阪府立大学博士前期課程
貝ヶ石 康平	(株)神戸製鋼	梶本 博	大阪府立大学博士前期課程
門田 一輝	DMG 森精機(株)	川瀬 充弘	大阪府立大学博士前期課程
北村 徳識	(株)日本製鋼所	北岡 遼一	神奈川県
小北 誠時	三井造船(株)	草薙 一真	大阪府立大学博士前期課程
秦 宇瓊	帰国	白井 孝明	関西設計(株)
洲河 杏平	三菱重工業(株)	杉原 悠介	大阪府立大学博士前期課程
高橋 美苗	(株)アルバック	杉本 健	(株)福井銀行
竹田 陽亮	新日鐵住金(株)	立花 雅樹	大阪府立大学博士前期課程
中田 将吾	日立造船(株)	谷口 知	常石造船(株)
原田 貴明	トヨタ自動車(株)	藤原 浩晃	大阪府立大学博士前期課程
平沼 真衣	川崎重工業(株)	本藤 裕佑	大阪府立大学博士前期課程
福永 卓真	(株)毎日放送	松尾 俊輔	大阪府立大学博士前期課程
藤村 遼平	川崎重工業(株)	松岡 雅紀	大阪府立大学博士前期課程
松田 有祐	(株)タクマ	山田 祐介	大阪府立大学博士前期課程
水上 裕貴	東洋エンジニアリング(株)	津川 浩哉	大阪府立大学博士前期課程
宮本 雅之	オプテックス(株)	上田 一貴	アサヒホールディングス(株)
矢野 貴大	マツダ(株)	遠藤 昂彦	大阪府立大学博士前期課程
渡邊 一光	ジャパンマリンユナイテッド(株)	澤 賢太郎	本田技研工業(株)
		與座 寛晃	サノヤスホールディングス(株)

大阪府立大学工学部 鷗朋会 第 10 回総会理事会報告

- 日 時： 平成 28 年 4 月 29 日（金）17:00～17:30
- 場 所： 大阪府立大学海洋システム工学分野会議室
- 出席者： 岩崎会長(大 20 期)、藤原副会長(大 24 期)、大塚副会長(大 35 期)、城野(大 8 期)、杉山(大 12 期)、吉久(大 13 期)、定兼(大 15 期)、西田(大 17 期)、本庄(大 20 期)、池田(大 21 期)、三宅(大 30 期)、坪郷(大 39 期)、片山(大 41 期)、中谷(大 45 期)、黒田(大 51 期)、谷口(大 56 期)、天野(大 63 期)、藤村(大 63 期)、足達(大 64 期)(敬称略、以上 19 名)
- 資 料： 鷗朋会 第 10 回総会 議事次第
- 資料 (1) (a) 2015 年度決算報告
(b) 2016 年度事業計画
(c) 同窓会伝達方法の検討
添付資料 1 Email Address ご開示に関する御願い
- 資料 (2) (a) 正会員に関する会則変更
(b) 会費前納に関する細則
(c) 理事会決議事項の効力に関する細則

片山理事より開会の辞、岩崎会長より挨拶、議長に大塚副会長が推薦され承認された。

□議 事：

(1) 報告事項

a) 2015 年度会計報告 (資料(1)(a))

中谷理事より資料に基づき 2015 年度会計報告と監査報告が行われた。

b) 2016 年度事業計画 (資料(1)(b))

藤原副会長より資料に基づき 2016 年度事業計画に関する報告があり、計画通り実施する事となった。

c) 同窓会伝達方法の検討 (資料(1)(c))

岩崎会長より資料に基づき同窓会伝達方法に関する説明があり、引き続きアンケート結果の収集を行うこととなった。

(2) 審議事項

a) 正会員に関する会則変更 (資料(2)(a))

岩崎会長より資料に基づき正会員に関する会則変更に関する提案があり承認された。

b) 会費前納に関する細則 (資料(2)(b))

岩崎会長より会費前納に関する細則の提案があり承認された。

c) 理事会決議事項の効力に関する細則 (資料(2)(c))

岩崎会長より理事会決議事項の効力に関する細則の提案があり承認された。

片山理事より、閉会の辞。

以上 文責 黒田桂菜 (大 51 期)

2015 年度 会計報告書 (2015. 4. 1-2016. 3. 31)			
収入の部		支出の部	
前期繰越	408,126	振込手数料	41,270
		通信費	331,580
同窓会会費	1,086,000	役員費	632,200
理事会参加費	17,000	事務費	63,210
寄付(個人)	100,000	印刷費	441,120
(退職記念謝恩会)	73,933	会議費	55,208
利息	80		
HP拡充費	30,000	HPアルバイト	30,000
ホームカミングデー援助費	100,000		
同窓会活動支援金	142,000		
小計	1,549,013	小計	1,594,588
		次期繰越	362,551
合計	1,957,139	合計	1,957,139

大阪府立大学工学部 鷗朋会 第 62 回理事会報告

- 日 時： 平成 28 年 11 月 16 日（水）18:00～19:00
- 場 所： 大阪府立大学海洋システム工学分野会議室
- 出席者： 岩崎会長(大 20 期)、藤原副会長(大 24 期)、大塚副会長(大 35 期)、城野(大 8 期)、杉山(大 12 期)、吉久(大 13 期)、定兼(大 15 期)、西田(大 17 期)、松本(大 19 期)、池田(大 21 期)、三宅(大 30 期)、有馬(大 37 期)、坪郷(大 39 期)、片山(大 41 期)、中谷(大 45 期)、黒田(大 51 期)、天野(大 63 期)、藤村(大 63 期)、勝部(大 64 期)、渡辺(大 64 期)(敬称略、以上 20 名)
- 資 料： 鷗朋会 第 62 回理事会 議事次第
- 資料 (1) 2016 年度会計中間報告書

- 資料 (2) 編集委員会報告
- 資料 (3) 2017 年度会計予算案
- 資料 (4) 賜朋会役員名簿
- 資料 (5) 深沢先生 退職記念謝恩会 (案)
- 資料 (6) 賜朋会電子媒体利用 (印刷物不要) の希望調査について

片山理事より開会の辞、岩崎会長より挨拶、議長に大塚副会長が推薦され承認された。

□議 事：

(1) 報告事項

a) 2016 年度会計中間報告 (資料 (1))

中谷理事より 2015 年度会計中間報告が行われた。主な変更点は、賜朋発行を 2 回から 1 回に減らし、ニューズレター発行を 1 回から 2 回に増やした点 (理由：総会の審議事項や田中紀男先生の訃報を速やかに会員に報告するため)。

b) 編集委員会報告 (資料 (2))

三宅理事より資料に基づき同窓会誌の発行状況に関する報告があった。ニューズレターは 8 号からネット依頼印刷に切り替えた。その実績を考慮して、『賜朋』も第 25 号からネット依頼印刷に切り替える予定。

(2) 協議事項

a) 2017 年度会計予算に関する件 (資料 (3))

中谷理事より 2017 年度会計予算に関する提案があり承認された。

b) 新理事推薦に関する件 (資料 (4))

片山理事より新理事：勝部氏、渡辺氏の提案があり承認された。

c) 「深沢先生退官記念パーティー」協賛について (資料 (5))

中谷理事より深沢先生退職記念謝恩会に関する説明があり、賜朋会の協賛が承認された。

d) その他 (資料 (6))

中谷理事より電子媒体利用の希望調査に関する報告があった。当面は、印刷物送付と電子媒体を並行し、会員の意見を聞きながら徐々に印刷物送付を減らしていく方針とする。尚、ホームページ上でも発行物を閲覧できることを会員に案内しておく。

片山理事より、閉会の辞。

以上 文責 黒田桂菜 (大 51 期)

2017 年度 会計計画書 (2017. 4. 1-2018. 3. 31)			
収入の部		支出の部	
前期繰越	377,677	振込手数料	50,000
		通信費	465,240
同窓会会費	1,170,000	役務費	627,200
理事会会費	50,000	事務費	90,000
		印刷費	174,204
HP拡充費 (工学部同窓会より)	30,000	会議費	100,000
		雑費	10,000
同窓会企画援助費 (工学部同窓会より)	100,000	HPアルバイト	30,000
小計	1,350,000	小計	1,546,644
		次期繰越	181,033
合計	1,727,677	合計	1,727,677

訃報

造船 1 期	野間 哲夫氏 (平成 28 年 4 月 5 日)	大学 1 期	古山 幹夫氏 (平成 28 年 7 月 3 日)
造船 2 期	山本 恵造氏 (平成 28 年 9 月)	大学 2 期	亀井 眞澄氏 (平成 28 年 7 月 9 日)
造船 3 期	大上 利弘氏 (平成 28 年 8 月 2 日)	大学 3 期	中村 有利氏 (平成 27 年 11 月 14 日)
造船 3 期	田中 紀男氏 (平成 28 年 5 月 9 日)	大学 6 期	下村 泰三氏 (平成 28 年 11 月)
造船 4 期	高井 良明氏 (平成 27 年 5 月)	大学 9 期	野原 成夫氏 (平成 27 年 6 月)
造船 4 期	外山 嵩氏 (平成 29 年 3 月 16 日)	大学 13 期	井削 義博氏 (平成 28 年 7 月)
造船 4 期	松本 敏夫氏 (平成 28 年 1 月 24 日)	大学 35 期	大嶋 哲也氏 (平成 28 年 12 月 14 日)
造船 5 期	平田 正彦氏 (平成 27 年 1 月)		

本会はこの訃報に接し、謹んで哀悼の意を表します。